

でもやる了解をとつとかんですか。そうせんと、1月には船が巖原港に来ません。市長の手腕にかかっていますよ。ぜひとも、この実現がなるように、ここで何とかしますという、胸をたたいて御回答をお願いします。やりましょうと宣言してください。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 先ほども申しましたように、このターミナル使用料の予算の一部もここに入れながら、実は国のほうとも今協議を進めているところでございますし、国のほうが過疎のソフトをここに充当できんかということで、いろいろと御指導もいただいているところでございますので、過疎債ですから、どっちか言うたら単独と同じようなところと言わざるを得ないとは思いますが、この4,000万、今ここにすぎ込む予定で準備を進めているところでございますので、御理解をいただきますようお願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 8番、淵上清君。

○議員（8番 淵上 清君） 時間が来ましたんで、あとは関連質問を大浦議員がします。

今、本当に困っておられますよ。この状況を悠長なことをしとつたらだめです。今やるのは市長しかおらんのです。それをしっかりと胸にたたみ込んでやってください。大いに期待しています。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 関連質問に入ります。清風会、15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） それでは、関連質問を行います。清風会の大浦孝司でございます。

残り20分ぐらいしかありませんので、質問のほうの内容には省略いたします。

まず、9月定例会におかれまして、この金融対策を、とにかく運転資金等で、非常に困つとる方が、これをどうするか、これは、長崎県の資金繰り緊急対策等のことやら、市も独自に考えようと、このようなことを定例会では聞いております。この成果、実態はどうなのか。それから、県とタイアップの宿泊の料金の値下げ、1人1泊3,000円、これが観光客及びビジネスの仕事上対馬に来る方も対象とすると。これの実績がどうなったのか。

それから、国境離島予算の関連でありまして、滞在型促進事業の現段階での実績、まずはこの3点のどれだけ対馬に国内対策で、韓国観光客の流入を方向転換するんだと。国内の観光客を推進することでこのピンチをチャンスに変えにゃいかんという思いのもとに予算を組まれたわけですが、そういうようなことを取り組まれる中で、今後のその方向性を市長はどのようにとらえ、その期待はどういうふうに思っておるか、ここらを直接市長の口からお伺いしたい、かように思っております。

それと、最後に、大変、先ほど会長が言いますように、もがき苦しんでいる経営者の実態とい

うのを私も見てまいりました。バスも走っておりません。レンタカーも個人がときどき、せいぜい10台を1社あたり動かすことの範囲で準備しておるといふことで聞いております。そのような中で、紹介したい事項がございますので、それについて、のちに御意見を伺いたい。それと、対馬の島民の皆様が確かに国内外の、対馬市の動きはどうか、私も知っておる限り、国に於いての動き、これには限界がありますが、これはこれで、今までの対応は私も十分承知しております。その他、皆さんの思いは、韓国側への何かの形でどうかというふうなことを対馬市の考えが今後もしあれば、そこらを紹介していただきたい、かようなことで質問をいたします。

それでは、答弁のほどよろしく申し上げます。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 清風会、大浦議員の御質問にお答えいたします。

ちょっと質問と順序が若干答弁のほうが違うかもしれませんが、御容赦いただきたいと思っております。9月の補正予算におきまして、韓国人観光客激減対策といたしまして、長崎県との共同事業で、総額1億900万円の事業を実施しているところでございます。そしてまた、先ほどこの予算に關しましての利用状況はどういう状況かということでございますけれども、集計の関係で、1カ月おくれのものもありますが、御質問に従って、事業の中間報告をさせていただきたいと思っております。

まず、3,000円の宿泊割引についてでございますけれども、インターネットを利用しての売り上げ状況は、11月25日現在で25.3%の773件であります。コンビニ利用のクーポン券販売は、60.5%の3,630件となっております。全体で1万人の目標値でございますけれども、44%の利用率となっております。

次に、融資の状況でございますけれども、長崎県が9月17日に限度額3,000万円、利率1.3%の緊急資金繰り支援資金の運用開始を発動されまして、数件の利用があっているようでございます。対馬市も、対馬市中小企業振興資金の枠を800万円から1,000万円に拡大し、そして利率におきましても、1.8%を1.5%に引き下げることを銀行にお願いし、このほど承諾をさせていただきまして、利用しやすい融資制度に変更をしております。また、政府金融公庫のほうには、数十件の申し込みがなされておまして、実行されている模様で、これにつきましては、一部利子補給を行うようにしております。次に、しま旅滞在型促進事業につきましてでございますが、9月末現在、3,255人泊と、昨年同期比の約6倍にふえております。10月、11月はもっと伸びているものと思われ、年間7,400人以上が見込まれております。

このように、国内観光客の誘客につきましては、助成金の効果もあり、順調に伸びておりますが、助成金がなくなった後が課題となりますので、10月18日に対馬観光のあり方検討委員会を組織し、対馬観光の将来ビジョンを協議していただいております。

対馬の魅力であります歴史と自然、そして食に磨きをかけ、日本人観光客の要求水準を満たせる受け入れ体制を構築していきたいと考えております。また、10月25日に対馬おもてなし協議会を発足し、市内の観光産業の方々のおもてなしの意識を上げていくセミナー等を実施していく予定としておりまして、早速12月23日、24日に観光関係者セミナー意見交換会を厳原会場、比田勝会場で行うこととしております。

このようなことの日韓政府への働きかけについてでございますけれども、日本政府への働きかけにつきましては、地元選出の国会議員や東京において九州国会議員の会に要望書を提出し、官房長官までお伝えいただいている状況でございます。また、11月の24、25日には、3名の九州国会議員の会の皆様と内閣府や観光庁といった国の機関の方々が対馬に訪れていただき、比田勝と厳原の状況視察と、一部の事業所の方に御出席いただき、意見交換をしたところでございます。この際の報告書は、先ほども申しましたけれども、場合によっては、安倍総理もごらんいただくようになるとの情報もあっている次第でございます。

また、11月28日には、参議院自由民主党の議員会長名、幹事長、政策審議会長の連名で、菅官房長官及び衛藤内閣府特命大臣に対し、国境離島政策に関する申し入れがなされております。この内容的には、対馬を意識した内容となっております。韓国におきましては、行政報告でも述べましたとおり、11月26日に釜山市におきまして、対馬国際航路開設20周年及び航路利用500万人達成を記念いたしまして、対馬観光レセプションを開催いたしました。航路事業者、旅行社関係及び韓国の関係者の方々約80名の方に対馬への誘客を地元の観光事業者とともに呼びかけてきたところでございます。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） ありがとうございます。融資の件で、確認いたしますが、県の緊急資金繰り支援資金、上限3,000万、1.3%の金利、これが、聞くとところによると、3件の9,000万ということで、これは担当のほうから、直接会って、この実績を聞きました。非常に、融資機関、銀行ですから、保証協会の判断が最終決定となりますので、非常に経営の内容が問われるということで、難しい、なかなかこのような時期には該当しにくいというふうな結果が出ておるように思われます。それで、先ほど申されました商工会の窓口として、行っておる日本政策金融公庫、昔は国民という言葉があったんですけども、名称を変更して、日本政策金融公庫、これが、実はこの制度でかなりの方が一時的に急場をしのいだというふうな内容になっております。21件の1億2,000万が総額で、今までの現在の該当だそうです。先ほど市長はこの金融公庫の利子について、利子補給を考えておると言われましたが、これは私もこの金利は存じておりませんが、具体的には、どのような金利に対して補給を幾らするのかということまで

できれば方針で結構ですが、お聞きしたい、このように思います。

とりあえず今の日本政策金融公庫でこの急場を、大勢の方が救われたということは、非常に私はよかったなと思っております。しかし、あくまでも担保なし、保証人なしということでありますから、今後、このことに迷惑がかからんようなことが今からの主たる事業者の思いだと思いますので、その辺の中で、利子補給の件に触れまして、市長の先ほどの答弁をもう少し具体的にお願ひします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 利子補給の件につきましては、担当部長のほうに答えさせていただきます。

○議長（小川 廣康君） 観光交流商工部長、二宮照幸君。

○観光交流商工部長（二宮 照幸君） ただいま御質問がありました日本政策金融公庫の融資に係る利子補給の方でございますけれども、この利子補給の利率につきましては、使われる制度等によって率が変わってまいります。市のほうの補助といたしましては、借り入れをされた方が、お支払いをされる利子額の10%を市のほうが補助するような制度になっています。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 私も、その法定利子が幾らになっているかわかりませんから、10%を市が持つということで、方向はそういうことで確認をとってよろしいですね。皆さんそういう期待が当初から9月ぐらいからあったみたいですが、しかし、それは銀行から借りるという想定のもとにあったんですが、それがほとんど保証協会からはねられたというふうなことであろうかと思ひます。ですから、ここで救われた分、やはり借りっぱなしでとられちゃいかんから、それを角度としては大切にせにやいかんというふうな思ひが私はしております。

報告関係は、もう1点の有人国有離島に関する滞在型観光事業の件なんですが、これは当初予算を実質1,500万相当組んで、それで、9月の補正でさらに1,200万相当を組んだということは、4月から9月までの間の予算は使い切る見込みということであるんですが、ちょっと、このことに時間はとりません。幾らか3年目ですね、この予算というのが。当初から、対馬全体の例えばホテルの事業所において、ホテル対旅行会社との業務提携がないとこれは申し込めませんということ聞いております。これが、スタートの時点で全体に広まっておらなかった、本年度やっとな新規にそういうふうなことで、赤い風船とかいう1枚ものには、本年度の対象として、島内のホテル関係が大体網羅されているのは見ましたが、それ以前はあまりそれが浸透しておらず、これは、対馬に韓国の観光客がものすごく来るもんだから、ホテルの予約ができんという思ひからしたんじゃないかなろうかということがありますが、平等に今後においては取り扱いをやっ

いただきたい。かように思います。

そして、ちょっと、市長は存じないかもしれませんが、9月の15日前後に東横インの西泊の開店という、業務が開始するということであつたんですが、そのときの早速その商品を使われて、福岡空港から、対馬の1泊2日の旅が1万円を割る、かようなことでありました。往復で2万8,000円じゃないですか、島外の方は、7,000円としまして。そうしますと宿泊を入れれば、8,000円なり、バスを使えば、2,000円なり、そうすれば、4万ぐらいの金がかかるのに、1万円で済むということはどういう計算かなと、非常に私はわかりづらいつつ思ったんですが、この中で、全日空がほとんどこの金を吸い上げる、そして旅行会社は企画をする、このようなやり方、そのような予算の書き方をしています。このことで、今後3月の定例会でこのことについて少し勉強してみたいと思うんですが、そのときにこのことについては触れたいと思います。もう時間ありませんので、たった2分ですか、あと。

例えば、対馬に健全なときには、100台を超える観光バスがあつた。現在、50名の運転士は、失業、もしくは休業状態にあると、その中で、対馬市に対し、スクールバスの運転が不足が生じた場合、ここにひとつつながることができないかということがありました。これは、教育委員会に確認したところ、バスは対馬市が購入し、この運転の業務については、市が対馬交通に委託する、こういうことでありますので、その辺について、後でいいですから、答弁をお願いしたいと思います。

もう1分ですから、最後になるですね。最近の日韓の両政府の動きが少し変わっております。11月の28日、徴用工問題について、両国の間で打開していかなくやいかんということで、攻勢をかけております。韓国政府を基本として、その他日韓の企業、それが、経済協力の名目のもとに基金を創設して、これを成し遂げ賠償保障じゃなくて、未来の日韓関係の資金をつくるということで、この問題を解消するという方向であります。これを軸に、私は非常に……

○議長（小川 廣康君） 時間がまいりましたのでお願いします。

○議員（15番 大浦 孝司君） 時間が足らんもんですから、十分なことが3分の1ぐらい残しました。後にまた話をすることはいたします。

以上で終わります。

○議長（小川 廣康君） これで、清風会の会派代表質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 昼食休憩とします。再開を1時15分からとします。

午後0時06分休憩

午後1時12分再開